

ヘリコプタークルージング 騒音調査について

1. 調査の経緯

平成 27 年 9 月 1 日に開催された第 1 回適正利用・エコツーリズム検討会議において、知床五湖遊歩道を散策中のガイドツアーが、報道機関ヘリコプターの飛行音（低空飛行）によって驚いたヒグマの威嚇行動を受けた事例が報告され、環境省が一定の申し入れをすべきことが指示された。

また、6 月から 9 月にかけて旅行事業者（JTB 北海道・北清ヘリシス）によって催行された「遊覧ヘリ」が、検討会議において事前協議のなかったことが問題視され、平成 28 年度以降も実施する場合には、環境への影響が軽微であること、知床の価値が損なうことのないことを説明する資料をもって、事前協議するよう指示があった。（事業者には、観光協会が指示。）

上記後者の指示を受け、平成 28 年度も継続実施する場合に備え、事業者と観光協会により、騒音調査を行ったものである。

2. 調査方法

(1) 第 1 回調査（平成 27 年 9 月 18 日）

- 視界不良のためヘリは飛行しなかったが、平常時の騒音を測定するための調査を行った。
- ①高架木道最終展望台、②地上遊歩道 3 湖展望地、③駐車場、の 3 箇所で、12 分間の騒音測定を行った。
- 調査結果は別紙のとおりとなった。
- ①高架木道では、概ね 30～50db だったが、地上遊歩道からの回転式入口の作動時や測定器の側で話し声がした場合は、50db を超えた。
- ②3 湖展望地では、概ね 30～50db の間であった。
- ③駐車場では、概ね 40～60db の間であり、バスの進入時や近くで話し声がした場合に 60db を超えることがあった。

(2) 第 2 回調査（平成 27 年 9 月 28 日）

- 高架木道第 2 展望台で 12 分間の測定を行った。調査日は風がやや強かった（南南東、平均風速 2.4～2.6m/s）。
- この日、ヘリは、風の都合上、通常よりもやや低い高度約 700m（通常は 1000m）を飛行した。
- 概ね 45～65db だったが、風の音によって、ヘリによる騒音はかき消され、地上ではほとんど聞き取れない程度であった。（観光客もヘリが飛行していることに気づいていなかった。）

3. 今後について

2に記載した調査結果からの分析や考察は困難であるが、飛行ルートや飛行高度、飛行頻度、風向・風速などによっては、地上の観光客への影響を最小限に留めうることは示唆された。しかし、継続して運航する場合には、より詳細な騒音調査やコース設定の検討などが必要と考え、事業者や関係者と協議・調査を行いつつ実施計画を作成し、本検討会議に諮ることとしたい。